

残った草に、 とどめの一剤!



ヒエ・カヤツリグサ・広葉・
抵抗性雑草をまとめて防除

直播水稻に
登録拡大!!

水稻用 中・後期除草剤

ヒエクリーン® バサグラン®粒剤



®:ヒエクリーンはクミアイ化学工業(株)の登録商標です。
®:バサグランはBASFの登録商標です。

ヒエクリーンバサグラン粒剤

●有効成分:ピリミノバックメチル………0.40%
ペンタゾン(ナトリウム塩)……11.0%
●人畜毒性:普通物

特長

- 2成分の中後期剤で、初期剤や一発剤との体系処理に最適です。
- SU抵抗性雑草にも高い効果を示します。
- 殺草スペクトラムが極めて広く、難防除雑草にも有効です。
- 散布適期が長く、ゆとりの散布ができます。
- 稲や環境に高い安全性を示します。

殺草スペクトラム

雑草名	一年生雑草				多年生雑草					
	ノビエ	カヤツリグサ科	コナギ	アゼナ	マツバ	ホタルイ	ウリカワ	ミズガヤツリ	ヘラオモダカ	オモダカ
処理時期	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

(注) 除草効果 ◎:卓効 ○:有効 △:やや不十分 ×:不十分

上手な使い方

1. 散布の前に

- ①田面の土壌表面がなるべく均一になるようにていねいに砕土・代かきし、均平となるように整地してください。
- ②漏水の多い水田、極端な浅植えの水田、浮き苗の多い水田、植穴の戻りが悪い水田では使用をさけてください。

2. 天候

- ①散布後に晴天が続くと効果の発現が早く安定します。
- ②散布後2日以内に大量の降雨があると効果が十分発揮されないことがあります。晴天が続く条件を選んで散布してください。

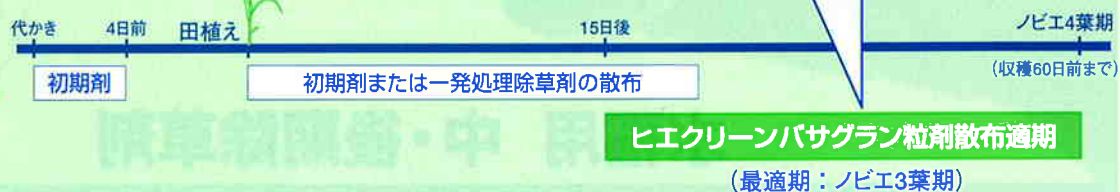
3. 水管理と散布

- ①止め水をしっかり：しっかり止め水してください。
- ②雑草が、水面上に出る状態の浅水にしてください。
- ③10アール当り3kgを均一に散布します。手散布や動力散布機などで散布してください。
- ④散布後は水口・水尻を止めたまま、少なくとも2～3日間は放置し、その後、入水し、通常の湛水状態を保ってください。散布後、7日間は落水・かけ流しはしないでください。

4. 散布適期

- ①移植前後の初期剤ないし一発処理除草剤の散布後の体系処理剤として散布してください。
- ②ノビエについては、気象条件や圃場条件により、発生時期や生育スピードが異なる場合がありますので、移植後15日～ノビエ4葉期までの散布適期に散布してください。
- ③ノビエ以外の雑草の散布適期は下記の通りです。
ホタルイ…4葉期まで ミズガヤツリ…4葉期まで(東北、北陸は3葉期まで)
ヘラオモダカ…4葉期まで(北海道は3葉期まで) ウリカワ…4葉期まで(東北、近畿・中国・四国は3葉期まで)
オモダカ…矢尻葉抽出期まで
- ④右の図を参照に散布してください。

使用時期



■使用上の注意事項

1. 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
2. 本剤はノビエに対しては発生前から4葉期に有効で、イネ科以外の雑草には生育期に有効ですので時期を失しないように散布してください。
なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期(上記の散布適期参照)に散布してください。
3. オモダカは発生期間が長く、遅い発生のもものでは十分な効果を示さないで、有効な前処理剤と組み合わせて使用してください。
4. 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいに行ってください。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行ってください。
5. 散布の際は、本剤は水の移動に伴う移行性が大いなので、水の出入りを止めて、ごく浅水状態(雑草が水面上に出る状態)にして田面に均一に散布し、少なくとも2日間はその

- ままの状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。深水にすると効果が劣るので注意してください。
6. 処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用してください。万が一散布後に降雨があった場合は、落水させずそのままの状態を保ってください。
7. 以下のような条件下では薬害の生じるおそれがあるので使用を避けてください。
①砂質土壌の水田、漏水田(減水深2cm/日以上)。
②軟弱苗を移植した水田。
③極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田。
8. 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがありますが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていません。
9. 本剤を散布した水田の田面水を他の作物に灌水しないでください。
10. 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないでください。
11. 本剤はその殺草特性からくわい、せりなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意してください。DCPA剤との近接散布は薬害のおそれがあるのでさけてください。
12. 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

■安全使用上の注意

1. 誤食などのないように注意してください。
2. 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
3. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

※本資料は2008年9月現在の知見に基づき作成しています。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●防除日誌を記載しましょう。

0084 (08-9)